

社会生活 宿泊学習(2年生)

余暇活動の計画を立て、実行する力の育成

～ プランニングの支援による主体的な活動 ～

小出特別支援学校川西分校(高等部) 齊藤 英徳

生徒の実態

- 目標から**行動がそれやすい、定着しにくい**。
→ 行動調整(抑制、切替え、更新)が困難
周囲の生徒を見渡してから準備を始める。
- 発問に対して**注意が向かない**。
→ 「分かりません」、他の生徒と同じ答え
- **話し合いの参加に消極的で、支援が必要**。
→ 何を、どう伝えるか、不安をもつ。

身に付けたい力

(高等部2年・24名)

1. 経験をもとに**実現可能な計画**を立てる力
2. 目標を達成するために**情報を収集**する力
3. 主体的に判断し、役割等を**実行**する力
4. 身近な人に**相談**する力・思いを表現する力
5. 自分から様々な人に**報告・連絡**する力

プランニング

目標の達成に向けて、事前**行動の手順**を計画する能力

一連の行動の流れの中で、**時間の区切り**を見出し、特定のある区切りで、どのような**行動を選択し実行に移すか**を考える力

実行機能・・・プランニングと関連する

(目的に沿って行為をまとめる上で必要とされる心理機能)

- ① 行動や思考の**抑制**(がまんする)
- ② 課題や心構えの柔軟な**切替え**(他のやり方はないか)
- ③ 情報の監視、**更新**(短期記憶から長期記憶に)

→ 課題に向かう心理的抵抗を減らすための方向付けや環境作り

目標設定

事前学習の内容(社会生活)

1. 日程等、**選択機会**を設定する。
2. 役割を決め、仲間と話し合う。

当日のグループ活動の内容(総合的な学習の時間)

1. 手掛かりを活用し、**計画に沿って行動する**(買い物等)。
2. 仲間と協力し、活動の区切りで**確認・相談**をする。
3. 自分から施設等の人々(店員)に**話し掛ける**。

主体的なグループ活動

(7月・集団宿泊活動、長岡市内)


- 1グループ3～4名、**実態の幅がある**グループ編制
①先頭係・②地図係・③時間記録係・④班長の順に歩く。
- **得意な(課題となる)**活動を自分の目標にする。
- 必要性のある**役割・状況**(報告・連絡・相談等)
- 事後学習では、**ポスター作成・発表会**を実施する。

グループ活動の手掛かり

実行を助ける予定表・時間チェック表

予定を立てよう(時刻表を見る) 時刻は1コマ毎に表示
移動時間チェック表

班	場所	予定の時間	実際の時間	押印
1	11:00 11:15	11:00	11:00	○
2	11:15 11:30	11:15	11:15	○
3	11:30 11:45	11:30	11:30	○
4	11:45 12:00	11:45	11:45	○



振り返り

1	グループでのスピーチを計画通りに実行することができたか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
2	仲間や仲間外れ、自分の役割も理解することができたか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
3	自分の意見を述べてくれたか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
4	話し合いの場から、自分(自分たち)が何を学んだか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
5	自分の意見や考え、気持ちを、仲間や仲間外れに伝えることができたか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
6	計画通りに進めたか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
7	仲間や仲間外れ、自分の役割も理解することができたか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
8	自分の意見を述べてくれたか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
9	話し合いの場から、自分(自分たち)が何を学んだか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない
10	自分の意見や考え、気持ちを、仲間や仲間外れに伝えることができたか。	4.とても思う	3.まあ思う	2.まあ思わない	1.まったく思わない

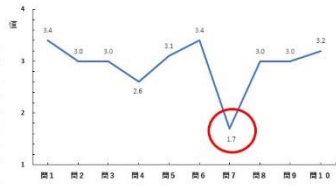


図1 自己評価の学年平均値 (長岡宿泊学習)

考察

- 計画に沿ってグループ活動ができ、それぞれが自信を付けた。
- 「面識のない人と会話する」に課題がある。
- 修学旅行に向けて、個々の課題に沿ったグループ編制を行う。

体験と日常生活をつなぐ支援

- ① 目標の明確化、体験をもとにした学習・振り返り
→ 長期記憶とつなげ、ワーキングメモリの負担を軽く。
- ② 日常生活における「対応する力」を高める支援
→ コミュニケーションの場を設定し、やり取りと行動が首尾一貫する(質問された内容に答える)。
- ③ 活動の関連付け・意味付け(動機付け支援)
→ 「余暇」と「労働」の関連、「なぜ働く?」を考える。

課題への取組

質問力を高める学習(演習)

- 聴く力を高め、適切な質問をする。

教師がテーマを考えてスピーチし、生徒が質問する。

伝えたいこと	SW1H	伝えたいテーマを書く
① なに	What	① なに
② だれに(と)	Who	② だれと
③ いつ	When	③ いつ
④ どこで	Where	④ どこで
⑤ どのように	How	⑤ どのように
	Why	
	なぜ?	

コミュニケーション指導

質問力を高める学習

長岡の「」で話をした。

① なに	(バスの乗り方について)
② だれに	(〇〇さんに)
③ いつ	(<input type="text"/> 時ころ)
④ どこで	(今いる場所)
⑤ どのように	(バス乗り場から目的地)

質問するときの態度

① あいづち・うなづき

聞いてくれてうれしい!

質問するときの態度

② 言葉をくりかえす

〇〇をお願いします

〇〇でよろしいか、〇〇ですか。

- 分からない時に質問する → 分かったら、うなづく ◎
- うなづきながら → 言葉を繰り返す ○

まとめ

- ① プランニングし、実行することで余暇が広がる。
◎ 活動範囲や楽しみが広がる (予測・自信)。
- ② 体験的な活動をとおして、生きる力を身に付ける。
○ 仲間と主体的に活動し、役割を果たす (働く意欲)。
- ③ 地域の様々な人に方向付けられ、広がる(社会性)。
△ 「伝える」コミュニケーション力を身に付ける。